

自由民権記念館だより

自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

- 企画展「憲法草案の生まれた書齋—行動する思想家植木枝盛」
- 植木枝盛旧邸書齋の展示工事が完了・一般公開始まる
・植木枝盛旧邸書齋の移築と復原の意義
- 企画展「板垣退助愛蔵品展—”板垣死ストモ” 時空を超えて」

VOL.
71
2011
October



常設展示室に移築復原された「枝盛の書齋」

● リレーエッセイ

“枝盛の書齋” 移築復原成る

植木枝盛旧邸「書齋」部分の移築復原工事が終わり、8月20日から一般公開をしています。

昨年6月に旧所有者の方よりお電話があり、「何年か前に、植木旧宅の書齋部分を自由民権記念館で保存したいといっていたが、アノ話がまだ生きているのなら協力したい」というお話でした。早速、市長や教育長とも相談の上、10月には移築復原検討委員会を立ち上げ、ご意見を得ながら移築展示事業を取り組みました。

あわただしい一年余でしたが、すばらしい移築復原です。現在、高知県内で望みうる最高水準の人たちによる移築復原です。家屋構造の詳細な調査から始まり、復原には壁の色、襖の紙質・色・模様^{ふすま}にいたるまで、最後までこだわりました。そのため担当の方々にはご苦労をおかけしましたが、その分すばらしい復原となりました。

わたしたち記念館のスタッフも、この復原過程で、歴史的遺物の復原あるいは復元がいかに大変か、そしていかに大事かと云うことを学びました。これからこの復原書齋を、植木枝盛をはじめとした土佐の民権家の憲法思想の意義を一緒に考える場として、さらに歴史的遺物の保存がいかに大切かについて一緒に考える場として使わせていただきます。

最後に、お名前を一々挙げませんが、復原に関係した総ての皆様、この場をお借りしてお礼を申しあげます。ありがとうございました。

松岡 僖一（当館館長）

平成23年度企画展

憲法草案の生まれた書齋 — 行動する思想家植木枝盛 —

平成23年度企画展「憲法草案の生まれた書齋—行動する思想家・植木枝盛—」を8月20日（土）から10月16日（日）まで2階特別展示室で開催しています。

今回の展示会は、植木枝盛旧邸の書齋が当館常設展示室へ移築・復原されたことから、自由民権運動における枝盛の業績などを取り上げたものです。企画展は三部構成で展示しています。内容について次に紹介します。



学芸員によるギャラリートーク

◆第一部

枝盛の生涯をたどる

企画展のサブタイトルに「行動する思想家」とあるとおり、枝盛は民権思想の普及に精力的に取り組みました。そのための手段として使ったのが新聞や著作物、演説などでした。そのような枝盛の活動をパネルや資料などで紹介しています。

展示資料は、枝盛の著作物や新聞の論説、あるいは演説内容の筆記など、その活動内容がわかるものを中心とし、枝盛直筆の書状や自身が起草した政治文書なども展示しています。復原された書齋と関連して、資料のなかにはその書齋で書かれたものもあるということを感じていただければと思います。



枝盛のベストセラー『民権自由論』

◆第二部

枝盛が生んだキャッチフレーズ

高知県の県詞にもなっている「自由ハ土佐ノ山間ヨリ」は枝盛のことばとして有名ですが、このほかにも印象的なキャッチフレーズを多く生み出しています。枝盛には現在のコピーライターのな方面でも才能を発揮していたのです。このコーナーではそうした枝盛のことばをとりあげ、それらが記載された資料とともに紹介しています。



「自由ハ土佐ノ山間ヨリ」が登場した『海南新誌』創刊号（高知県立図書館蔵）

◆第三部

枝盛の愛した書齋と旧邸

高知市桜馬場に所在していた枝盛の旧邸や書齋についての紹介です。

このコーナーではおもに、枝盛旧邸にあった襖の下張りからみつかった文書を展示しています。前号の『自由のともしび』では、枝盛の父である植木弁七の書状がみつかったことを報告していますが、その後の調査によって新たにみつかった

文書も多くあります。注目されるのは、谷万六をはじめとする谷家関連文書です。谷家は谷秦山（じんざん）にはじまる土佐藩の儒学者の家系で、万六は秦山から数えて四代目にあたります。しかも、明治政府の初代農商務大臣である谷干城（たつき）の祖父でもあります。展示では文書や絵図などとともに、桜馬場の旧邸は植木家の前に谷家が住んでいたのではないかとということを検証しています。



旧邸の襖下張りからみつかった谷万六宛書状

このほか、常設展示室では企画展に関連して、枝盛の直筆資料などを展示しています。復原された書齋ともども、ぜひご鑑賞ください。

— 8月20日 一般公開始まる —
植木枝盛旧邸「書齋」の展示工事が完了

昨年から取り組んできました「植木枝盛旧邸移設展示事業（総事業費1600万円）」が完了しました。

8月20日、関係者の方々約60名が参加してオープンセレモニーを開催。同日から一般公開を始めました。

当日は、「旧邸」建物や展示用「植木枝盛」座像、調度品などご寄付を下された方々に市長から感謝状の贈呈及び記念講演会などを行いました。

□寄贈協力者

自由民権記念館友の会、植木枝盛旧邸を保存する会（2団体）、寺村彰男氏、西内豊氏、森尾圭介氏（3個人）

□記念講演会

「植木枝盛と憲法案」松岡偉一氏（当館館長）、「植木枝盛旧邸書齋の移築と復元の意義について」三浦要一氏（高知県立大学准教授） ※4・5頁に掲載

なお当事業は、昨年度に同建物調査及び展示工事設計業務を行い、本年5月から6月まで建物解体、7月から8月まで館内展示工事をそれぞれ実施してきました。

旧邸書齋は、植木枝盛が『東洋大日本国憲案』を起草した、歴史的に大変貴重な建物で、これまでに市民から保存の要望がでていたものです。現在、可能な限りでの復原を行い、枝盛座像を含めて、当時の雰囲気伝える展示となりました。

また当館「常設展示室」での保存・展示公開によって「憲法コーナー」の拡充となりました。今後とも市民の皆さん方のご鑑賞・ご活用をお願いいたします。

● 「館長の期待」 ●

「憲法コーナー」はこれまでもありましたが、いきなり憲法の話に入ると、話す方も聞く方も戸惑いがありました。

このたび復原された書齋を前にすると、壁の色、襖（ふすま）の色・模様、調度品などの説明をして、一緒に自由民権運動時代にタイム・スリップすることが出来るようになりました。

その上で、「この書齋で植木枝盛が憲法案を起草したのです。かれの憲法に対する考え方は・・・」とスムーズに入れるようになりました。実物の持つ力ですね。



関係者によるテープカットで開幕



建物や枝盛座像など寄贈者に感謝状贈呈



常設展示室で公開された
 “枝盛の書齋”



原稿執筆中の枝盛に出会えます



初公開にはたくさんの方が来館

ところで「櫻馬場谷中ノ橋北村の家を見」については、「櫻馬場谷、中ノ橋北村の家を見」と句読点を入れて読むことが必要という説が出され、桜馬場の谷邸と中の橋の北村邸を見たものと解釈できる。植木枝盛は、明治11年8月4日に桜馬場の谷邸をみて引越し先に決め、9月13日には高知を不在にしており、直枝が一家の籍を移したことになる。

明治14年8月28日と29日の日記には「日本国憲法を舐す」とある。植木枝盛は、「東洋大日本國々憲案」を書斎としていた旧邸の南の四壁が赤色の八畳において起草したことを思わせる。

植木枝盛旧邸の遺構

「東洋大日本國々憲案」が起草された当時の平面図の特徴を以下に述べる。

- ①玄間は土間と五畳に復原できるが、低い板敷の式台の痕跡が見あたらない。
 - ②書斎（客間）は八畳、次の間が九畳で、次の間が書斎より広くなっている。
 - ③長押は江戸時代に土佐藩で禁止されていたが、書斎と次の間に廻される。
- 植木枝盛旧邸は復原考察から、桃山時代に完成した武家住宅に準ずるが、近世の住宅様式としては整っておらず、江戸時代に禁止された長押が廻されており、近代らしいつくりである。

ふすまの下張り

書斎の押入のふすまには、直枝が安政3年（1856）9月に奉行所へ差し出した文書が残されている。次の間とのふすまは、下張りに「谷萬六」に宛てた文書が残され、享和元年（1801）「高知御家中等籠圖」は、植木枝盛旧邸の付近に「谷万六」と書き込みがある。

土地は江戸後期に谷家が所有し、植木枝盛旧邸には谷家が居住していたことになる。書斎の四壁は赤色土壁であり、植木枝盛が気に入る、植木家が谷家から購入したものと推察することができる。

以上、植木枝盛旧邸の建物沿革の全容は判明しなかったが、建築年代は江戸時代に遡るものでなく、明治11年には建築されていたものとして取り扱える。

3 常設展示室における書斎の展示計画

書斎は高知市立自由民権記念館の2階「常設展示室2」に展示することになるが、その荷重は問題とならないとされた。常設展示室2は既設の展示があり、書斎を移築することで改変が必要となること、天井高3500ミリメートルでは、書斎をそのまま移築できないこと、以上の2点が展示計画の課題となった。

移築の方針

植木枝盛旧邸は書斎、次の間が往時の続き間の座敷を保持するが、移築は赤色土壁の痕跡が床脇の床板の下、欄間の上部の小壁に残る書斎と縁側とする。書斎などの床束は切断され、礎石の上に煉瓦などを積みあげた上に立って大引を支えている。切断されたままの床束を

再用するが、根継をしないため、展示後は床高が低くなる。常設展示室2の天井高に納めるため、小屋組は移築することができない。軒桁と縁桁は移築が可能であり、展示後は屋根が軒先のみとなる。

常設展示室の書斎の配置

I案では、常設展示室2の南東部分とする。壁面展示の変更は少ないが、「自由大懇親会」の人体模型に大きな影響を与え、床の間が北向きになる。II案では、常設展示室2の南西部分とする。壁面展示の変更箇所は多くなるが、「自由大懇親会」の人体模型への影響が少なく、床の間は東向きとなる。

ふたつの案を検討した結果、II案を採用し、人体模型は一体を移動させた。移築した植木枝盛旧邸の書斎は、自由民権運動の歴史のなかで憲法草案を考える、という新たな常設の展示になった。現状は書斎の床の間が西向きであり、常設展示室2では東向きとなるが、現状の南庭から書斎を眺めると同様な雰囲気演出しており、現地の庭と書斎からなる歴史的空間を再現した展示になっている。

常設展示室の天井高と書斎

書斎は、床高が905ミリメートル、天井高が2676ミリメートル、軒桁が370ミリメートル、合計すると3951ミリメートルとなり、常設展示室2の天井高にはおさまらない。展示計画では、畳天端を450ミリメートルとする。床高は現状よりも約450ミリメートル低くなる。小屋組を撤去することになるが、縁桁に「頭押さえ」「間柱」「壁」を附加し、軒の出を復原する。

4 植木枝盛の書斎の移築と復原の意義

第1に、書斎がもつオーセンティシティ（真実性）である。高知城の旧城下四か村に所在した植木枝盛旧邸の書斎を移築している。植木枝盛の代表的著作であり、戦後の日本国憲法に大きな影響を与えた「東洋大日本國々憲案」は、この書斎で起草されたものである。憲法草案が起草された当時の書斎を偲ぶことができることは、歴史的な意義が深い。

第2に、書斎が文化財的価値を有する。植木枝盛旧邸は、築後130年以上を経過した建造物であり、書斎は平面と室内の赤色土壁を痕跡にもとづいて、往時の姿に復原している。高知市内では明治初期の書斎が現存すること自体が稀少であり、植木枝盛旧邸の書斎は床と床脇を備え、欄間やふすまの意匠も優れ、特に趣向を凝らして歴史的価値が高い。

第三に、土佐の住宅建築史研究に寄与する。植木枝盛旧邸は、明治初期の高知城の旧城下四か村においても、赤色土壁が用いられていたことを明らかにする。高知県内において赤色土壁をもつ住宅である江戸時代の竹村家住宅【重要文化財】、岡御殿と旧岡家住宅【高知県保護有形文化財】、明治以降の杉本家住宅【登録有形文化財】、旧都築半平別邸【四万十町】、乗光寺書院【登録有形文化財】と比考察することが可能となる。

皇室よりの下賜品やルイ・ヴィトン社製のトランクなど

板垣退助遺愛の品々寄託される

—10月26日(水)から企画展『板垣退助遺愛品展』を開催—

板垣退助に関する資料が、東京在住のご子孫小山朝和氏から当館に寄託されました。寄託された資料は総数41件。9月16日に、報道関係者に公开发表しました。

なお、10月26日(水)から12月18日(日)まで2階特別展示室で企画展『板垣退助

遺愛品展』を開催し、一般公開します。

多くの皆さまにご鑑賞いただきたいと存じます。

なお、当館への寄託の経緯で、高知近代史研究会会長公文豪氏の並々ならぬご助力があったことに感謝を申し上げます。



板垣退助肖像写真

板垣退助の肖像画は二度お札の図案に使われました。1953(昭和28)年発行の百円札に使われたことはよく知られています。その時に参考として提供された肖像写真も寄託資料に含まれています。

小山朝和氏のコメント

今回の寄託、展示公開を通し、板垣退助の江戸・明治・大正にわたる数多くの事績、又あまり知られていない社会政策活動に代表される社会を見る確かで豊かな眼、卓越した判断力と行動力、そして清貧を通じた矜持高い生き方などその人となりを少しでも多くの方に知って頂ける格別の機会となればこの遺品を守り伝えてきた各位望外の喜びであると思います。



写真(上) 脇差「備州長船則光」の銘
写真(下) 短剣「儀礼用」

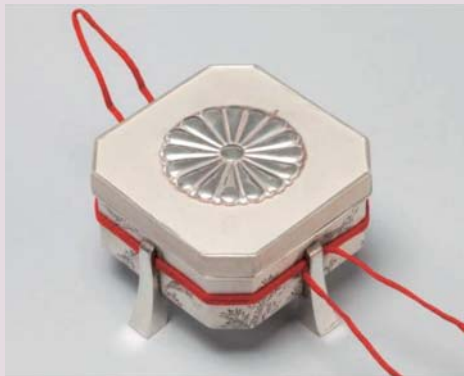
戊辰戦争時、会津に携行していたとされる脇差は、先祖相伝で備州長船則光の銘が刻まれています。板垣の先祖といわれる信形の槍の穂先を儀礼用の短剣に仕立てたものなど“武人板垣”の側面が偲ばれるものもあります。



報道関係者に公開 注目をあびた遺品群



ボンボニエール 八稜鏡型鶴紋



ボンボニエール 隅切り唐櫃型鶴松紋



素焼きの杯

戊辰戦争時、会津まで東征。江戸凱旋の時、明治天皇より賜りました。箱の裏には板垣が認めたと思われる「慶應四辰十月東征凱陣之節於江城賜之」の書付があり、重要な歴史資料です。

写真(外公園及び仁井田)

板垣退助の娘婿である写真家の小川一眞(おがわかずまさ)が、明治40年代の高知市を撮影した大判プリント写真があります。

ボンボニエール(銀製の小型菓子器)

寄託資料の中で数的に、大きな割合を占めるのが、皇室よりの下賜品。中でも注目はボンボニエール(銀製の小型菓子器)で、皇室の慶事の記念品として参列者に配られました。ほとんどが4~6cm四方と小さいながらも、重箱や八稜鏡など慶事にふさわしい意匠に加え、周囲にはおめでたい鶴や松が精巧に刻まれるという凝ったつくりです。



トランク (ルイ・ヴィトン製)

最大の注目は、板垣が洋行時、パリで購入したルイ・ヴィトンのトランクです。まだ、お馴染みのモノグラムはなく、内部には、7720と記されたシリアルナンバー入りのラベルが当時のまま残っています。(写真上) このトランクに西洋の書物を詰め込んで帰ってきたことでしょう。



常設展示 Q&A

- 12 -



Q 展示室に風刺画や自由の旗などが展示されています。自由民権運動のシンボルマークは、あったのですか。また自由民権の思想は、明治の頃からありましたか。教えてください。

A 高知県各地で催された自由大懇親会には、「自由」と大書した旗や結社名を書いた旗を持って参加しました。また「自由主義」の焼印などもありますが、民権家や民衆の同意を得たマークはありません。風刺画は、民権思想を楽しく、分かりやすく広めるためのものです。

自由民権の思想は、明治維新の頃からヨーロッパへの留学制度がありましたので、留学生が見聞した立憲思想などを取り入れたいとする個人レベルでの考えはありました。それが公のものとなり、立志社という大きな組織運動になっていくのは明治7年からです。

自由民権記念館出版物のお知らせ
 (紀要・展示図録) を刊行!

● 紀要第19号

(2011年7月31日発行 頒布500円)

[論文]

- ・ 昭和初期の国家改造運動と大岸頼好
 —その思想と行動— 岸本 繁一
- ・ 高知県における中間派無産政党的の成立
 吉田 文茂
- ・ 高知慈善協会の明治期から大正期にかけての活動経過について
 氏原 和彦

[特別展記念講演記録]

- ・ 日露戦争と非戦論 松岡 信一

[資料紹介]

- ・ 佐竹晴記関係資料 吉田 文茂
- ・ 藤田盛若関係資料 吉田 文茂

● 企画展

「憲法草案の生まれた書齋
 —行動する思想家植木枝盛—」

(2011年8月20日発行 頒布200円)

● 山本憲関係資料目録

(2011年3月31日発行 頒布1000円)



本邦初公開

企画展「板垣退助愛蔵品展」板垣死ストモ“時空を超えて”を自由民権記念館2階特別展示室で10月26日(水)から12月18日(日)まで開催します。

板垣退助の愛蔵品は、その死後、遺言によりご子孫の手で大切に保管されてきました。

板垣が洋行時、後藤象二郎と一緒にルイ・ヴィトンのパリ本店で眺えたトラランクも含まれています。

これらをご子孫の意思に配慮するため、お披露目も兼ねて2階特別展示室で紹介いたします。

さらに、1階ギャラリーにおいて、写真パネルなどにより板垣の生涯が概観できるように展示を行います。

このたび、父祖誕生の地である高知では是非活用してもらいたいと寄託のお申し出があり、これら名品の数々が里帰りすることになりました。その中には、明治15(1882)年、板垣が洋行時、後藤象二郎と一緒にルイ・ヴィトンのパリ本店で眺えたトラランクも含まれています。

平成23年度第61回高知県芸術祭協賛行事
板垣退助愛蔵品展

— 板垣死ストモ“時空を超えて” — ご案内

【展示内容】

- ① 戊辰戦争・迅衝隊—凱旋後の集合写真による「石版画」、明治天皇より下賜された「素焼きの杯」など。
- ② 洋行帰り—板垣愛用ルイ・ヴィトン社製のトラंक。表蓋に「ITAGAKI」の文字が印字され、内側には製造番号の入るタグがある。
- ③ 2度までお札に—紙幣に使用された肖像写真など。
- ④ 相撲好きだった板垣—四股名を命名し、入門から支援した。太刀山 関係資料。
- ⑤ 写真師小川一真(板垣の娘婿)が撮影した高知の風景“古写真”。
- ⑥ 功績を称えて—勲章等の紹介。
- ⑦ 皇室から下賜される—明治天皇御遺物下賜目録、銀杯、置物、掛軸など。
- ⑧ 著作と秘書・和田三郎—遺著『神と人道』の草稿、扁額、自筆墨跡など。
- ⑨ 記念メダルで構成し紹介します。

— 企画展関連行事 —

高知近代史研究会(第59回)のご案内

(テーマ) 板垣退助の一代華族論

(報告者) 公文 豪氏(高知近代史研究会会長)

2011年11月12日(土) 10時~11時45分

自由民権記念館 1階民権ホール
 入場無料

○ 第4回四国地域史研究連絡協議会高知大会
 (テーマ) 四国の自由民権運動

2011年11月12日(土) 12時45分~17時30分

自由民権記念館 1階民権ホール
 入場無料

どなたでも自由に参加できます。

■ お問い合わせ先

自由民権記念館内 高知近代史研究会事務局
 電話 088-831-3336